

医療介護経営研究センター

Research Center for Medical and Long-Term Care Management



「医療経営」「介護経営」に関する研究・実践を通じ 医療・介護分野の経営課題の解決を支援する

超少子高齢社会にあって、医療機関や介護事業所は質の高い医療と介護を提供するとともに、自律的に存続していくことが求められています。同時に医療・介護費用の増大は社会保障制度を持続していく上で深刻な課題となっています。

こうした医療機関や介護事業所の経営課題と社会課題の解決に寄与することを目的として、2019年、医療介護経営研究センターが発足しました。それに先立って2009年に設立された医療経営研究センターで、10年にわたって医療と介護における経営について研究と実践を積み重ねてきました。それを継承・発展させ、新たに誕生したのが本センターです。

本センターの特長は、経営学、生命科学、薬学、スポーツ健康科学など多様な分野の研究者が連携し、医療経営と介護経営の両軸で研究するところです。学術研究に留まらず、産官学連携のもと、医療と介護の経営課題および社会課題解決型の研究を推進しています。

医療分野においては、今後、病院経営を厳しい環境下でどのようにすべきか、さらに地域医療構想においてそれぞれの病院はどのような役割を果たすことが求められるのかについての関心が高まっています。そこで、「病院経営のあり方に関する研究」に焦点を当てた研究を行っています。

介護分野においては、口腔とリハビリテーションと栄養の取

組は一体となって運用されることで、より効果的な自立支援・重度化予防につながることが期待されています。そのためには、医師、リハビリテーション専門職、管理栄養士、看護職だけでなく、歯科医師や歯科衛生士等を含む多職種による総合的なリハビリテーション、機能訓練、口腔・栄養管理を行うことが求められています。それには、リハビリテーションの負荷又は活動量に応じて、必要なエネルギー量や栄養素を調整することが、筋力・持久力の向上及びADL維持・改善に重要です。そして、こうした課題の解決を図るとともに、ICT活用やAI化の現状を踏まえつつ、科学的介護研究を行っています。



第17回医療経営研究会開催

2026年2月14日(土)に立命館大阪梅田キャンパスにて、第17回医療経営研究会を開催しました。講演者は宮地正彦様(掛川市・袋井市病院企業団立中東遠総合医療センター企業長兼院長)で、「総合病院の過去、現在、そして未来―ファーストペンギンになることを恐れない―」をテーマとして、中東遠総合医療センターが統合に至った原因、過程、成果と課題、医師不足・医師偏在・診療科偏在、働き方改革の進め方、救急医療、大学と病院の関係、人間ドック検診の決定的重要性、病院経営のあり方など様々な論点について、独自の視点からの見方と具体的な課題解決方法を論じられた。講演後、質疑応答を行った。



主な研究テーマ

- 病院経営のあり方に関する研究
- 口腔・リハビリテーション・栄養の一体的取組みに関する研究
- 科学的介護研究



センター長：肥塚 浩(経営管理研究科 教授)
主な研究拠点：大阪いばらきキャンパス
お問い合わせ：立命館大学 研究部 OIC リサーチオフィス TEL: 072-665-2570 FAX: 072-665-2579 ✉: ocrnc@st.ritsumeikan.ac.jp
<http://www.ritsumeikan.ac.jp/research/mltcm/>

大阪歯科大学/立命館大学 口腔・リハビリテーション・栄養コンソーシアム 総会・報告会開催

2026年3月26日(木) 15時～17時に、立命館大学大阪いばらきキャンパスにて、大阪歯科大学/立命館大学 口腔・リハビリテーション・栄養コンソーシアム総会・報告会を開催しました。はじめに、総会議事を行い、2025年度のコンソーシアムの活動報告と2026年度の活動方針についての提案が、了承・承認された。その後、大島一博株式会社国際社会経済研究所理事(元厚生労働事務次官)により、「『高齢化の坂』と健康寿命の延伸」というテーマで基調講演をしていただいた。総会後、報告会に移り、会員企業による研究の進捗報告が行われ、活発に質疑応答が行われた。

